

JAIGミーティング2011参加記

宮本誠一 (JE3BEQ)

(前編 :一人旅)

昨年の日本でのJAIGミーティングから早くも一年が経ち、今年はドイツのゴスラーで第27回目が開催された。2006年のベルヒテスガーデン、2009年のフライブルグに続くドイツでの開催への参加であった。せっかくなので遠くまで出掛けるのだからと、毎回必ず一ヶ国未経験の国を訪れることにしているが、この一人旅部分では結構ストレスを感じながらも楽しむことができ、また次も行きたいと思うエネルギーを持ち帰ることができた。

5月2日関空を発ちオランダのスキポール空港乗換えの約10時間のフライトで、同日の夕方7時にスイスのジュネーブに到着した。緯度の関係からか日が暮れるのは9時すぎで、長い初夏の一日に得をしたような感じであった。

3日はモンブランの現地観光ツアーに参加した。一人旅の問題は、一人からでも参加できるツアーのメニューが極端に少ないことにある。ジュネーブもこれしか無かった。ロープウエーで3842mまで一気に昇り「酸欠で酔いながら、目の前に広がる広大な氷河の映像」を夢中でカメラに収めた。余りにも気軽に行けるので銀座に出かけるような恰好の日本の女性もいて、突然の零下の温度差に悲鳴を上げていた。(写真1 :モンブラン (痩せ細る氷河))

4日は国連を見学に行った。広大な敷地の幾つかの建物の屋上にはログペリのアンテナが揚がっているのを前々日空港からジュネーブに向かうタクシーの中から見ていて、その何れかが例の4U1UA (国連本部の無線局)と早合点し見学実現に心を馳せていた。一般見学受付の窓口で別の場所 (建物)の無線局の見学を打診したのがまずかった。国連本部の無線局はここには無い (ここにあるのは国際電気通信連合の4U1ITUであるのを知らなかった)ので話が?み合わなかったのと、特殊な目的をもって見学に来たように見られたのか一般見学も許可してくれないような雰囲気になった。何とか粘って見学に漕ぎつけ国連総会の会場など内部の様子をつぶさに見て、世界の意思決定の場に居ること自体が不思議な感じであった。(写真2 :国連総会の会場)

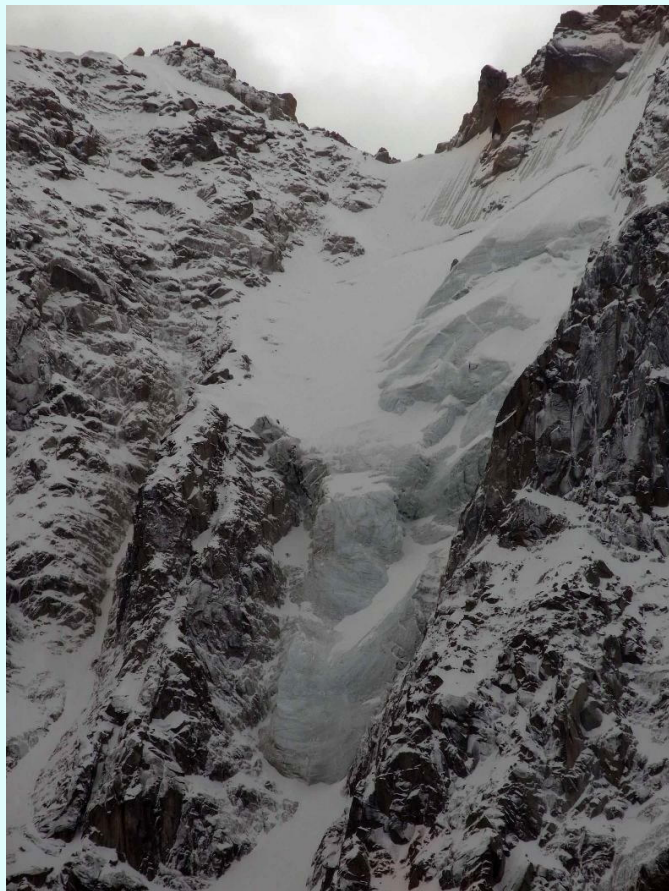


写真1 :モンブラン (痩せ細る氷河)

しかしやはり無線局の見学を諦めきれなかったので、建物の上に揚がっている巨大なログペリのアンテナを目指して歩き、一つの建物に到着した。森の中から現れたその建物は、国際赤十字の本部であった。(写真3 :国際赤十字本社のログペリアンテナ)

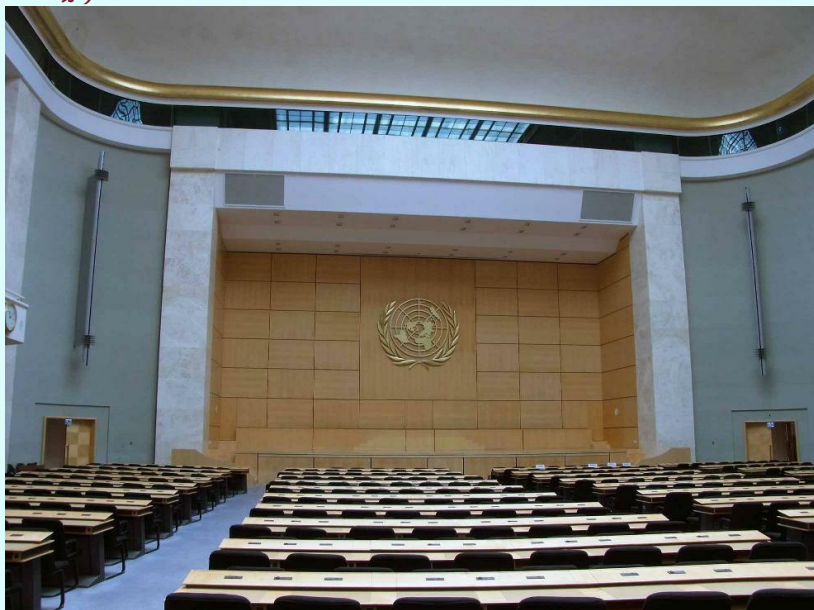


写真2 国連総会の会場

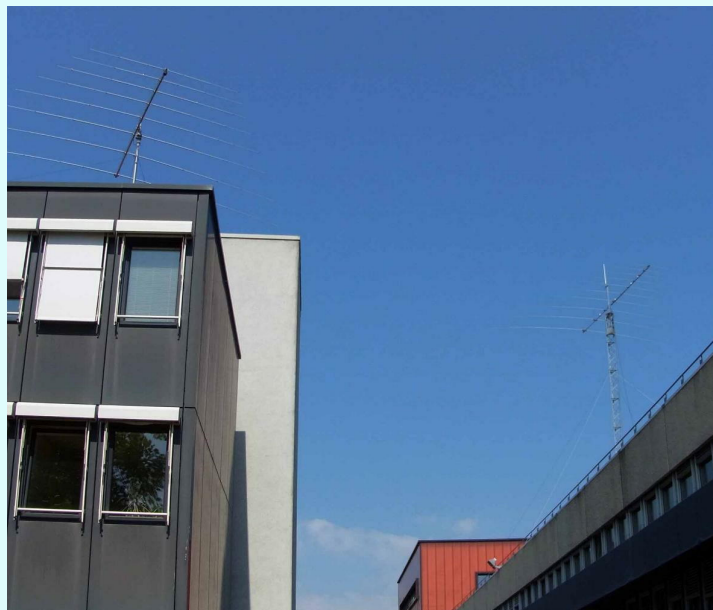


写真3 国際赤十字本社のログペリアンテナ

さらにもっと沢山のアンテナが揚がっている建物を目指して、周囲が見えない森の中を闇雲に歩き出した。途中道を間違えたが森が切れたところで突然又巨大アンテナ群が現れ、幾つかのビルからなるITU (国際電気通信連合本部)に辿り着いた。ここには国連本部のような一般見学コースは無いようで、見学を希望する場合は正式な願い出を出すか (方法を説明してくれたが理解できなかった)と、内部の職員を通じて手続きをする方法のどちらかによるようであった。国際赤十字、ITU共業務用のログペリを有し、ITUにはアマチュアバンドのアンテナも見た。(写真4:ITUのアンテナ)



写真4:ITUのアンテナ

残念ながらアンテナ巡りはこの辺にして、タクシーでレマン湖に出て遅めの昼食をとった。汗をかく暑さでもないのにもう泳いでいる人達がいる。白鳥が人と一緒に遊んでいる(逆ではない)風景に見惚れ、レマン湖をクルージングして心行くまで遊んだ。(写真5:甲羅干しを楽しむ人)、(写真6:子供と遊ぶ白鳥達)

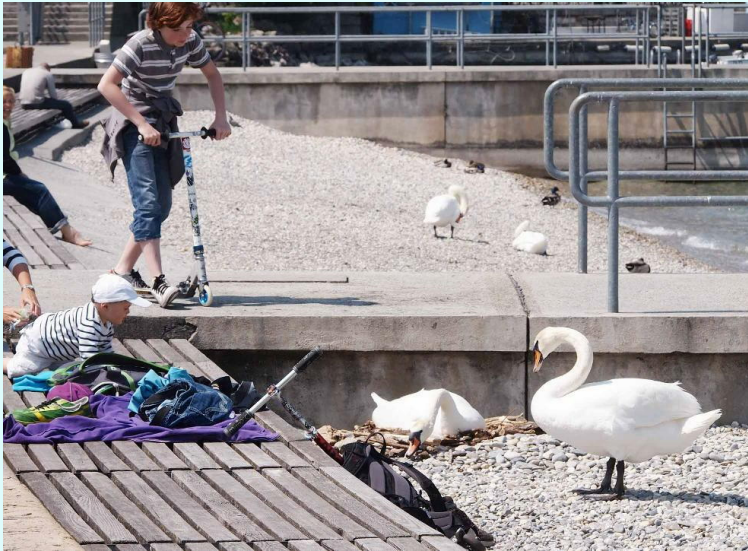


写真6:子供と遊ぶ白鳥達



写真5:甲羅干しを楽しむ人

5日は移動日で、ジュネーブからコイントラン空港まで鉄道を利用したが、切符を購入するのに手間取った。自動販売機は現地の人でももたついているので窓口で購入しようとしたが、その窓口が見つからない。仕方なしに自動販売機を操作したら、後ろに並んだ人から嫌な顔をされることなく上手くいった。不思議なのは、鉄道もバスも市電も切符の回収に一度もお目にかからなかったことである。無賃乗車の疑いを持たないのはさすがであるが、何か私の知らないチェック方法があるのか本当に不思議だ。コイントラン空港から目的のハノーバーには直行便は無く、ベルギーのブリュッセル空港経由でのんびりと久しぶりのプロペラ機を楽しんだ。(写真7:真横の席だったのでついワンショット)



写真7:真横の席だったのでついワンショット

ハノーバー空港からハノーバー中央駅で乗り換えてゴスラーまで行くのであるが、今度はドイツの自動販売機で切符を買わなければならない。聞くは一時の恥で聞けば良いのだが、ドイツの自動販売機の方が癖があるようでドイツ人もイライラしている人が多くなかなかタイミング良く聞けない。また指定されたホームが隣に変更されたにもかかわらず、行き先表示はどちらにも出ている等乗り間違える寸前

であったが、切符購入時に様子を見ていた見知らぬビジネスマンが親切にも声をかけてくれて目的の電車に乗れた。そして1時間後の19時にやっとゴスラーに到着した。吉岐さんに電話をかけると共に、駅前のホテルと聞いていたので勤でその方向に向かった。間も無く吉岐さんがやってきて、別のホテルで再会を果たし歓談中の皆さんに逢わせてくれた。長い一人旅の緊張が解れた一瞬であった。(写真8:再会を楽しむ若手メンバー)



写真8:再会を楽しむ若手メンバー

皆さんは既に食事が済んで余談を楽しんでいたこともあり私はこの時間から重たい食事を取る気にもなれず一緒にホテルに戻ることにした。このとき美恵子さん(DJ7KJ)が先にホテルに帰った佳英子さん(DK9QZ)から貰ったおにぎりががあるので頂戴したが、手作りのおにぎりが美味しく今日までの一人旅の疲れを癒し有難かった。今回のJAIGミーティングは、地元紙に取り上げられてゴスラーの人たちに知られるところとなり地元の方の協力と参加を得て充実したものになりそうですよと、吉岐さんが別れ際に嬉しそうに話されその夜は暮れた。(写真9:ゴスラーの新聞掲載記事)

(後編 :JAIGミーティング報告)

6日は先ずヴィーネンブルグと言うところに行き、現存するドイツ最古の駅のそばにある鉄道博物館を見学した。鉄道の古いパーツは我々にとっては真空管のようなもので、すぐ理解できて楽しめるため興味が尽きない。中には復刻版のSL環境で現用されている物もあり、ビンテージ物のリグを楽しむ気分であった。ヴィーネンブルグ市観光局の一番偉い方でアマチュア無線家でもある昔の駅長さん姿のペーター・フィッシャーさん (DF7AA)から説明をお聞きしていたら、突然アストリッド・エルトナーさんという美しいヴィーネンブルグの女性市長さんが現われ歓迎の挨拶を頂戴した。私は市長さんに只見惚れていたが、吉岐さんが仰っていた地元の歓迎ぶりを実感した瞬間でもあった。(写真10 :市長さんとペーターさん)

その後有名なグスタフアドルフ教会を見学して、HレファウスにあるNDR (ドイツ放送)のTVとラジオの送信所を見学した。パーチカルアンテナは高さこそ高いが細い円柱 (パイプ) と思っていたら、目の前で見て吃驚。アンテナ基部はロケットの発射台のような形をしていて大きく、パイプの内部には2人乗りのカプセルエレベーターがあり先端まで行けるとのこと。また其々のアン

テナエレメントは、中間部の何箇所か膨らんだ部分に収納されているそうぞ。どんな格好のものが入っているのであろう。送信パネル室では、極太の同軸ケーブルの結合器や芯線の周りが空気同軸ケーブルを初めて見る事ができた。(写真11 :パーチカルアンテナ) (写真12 :アンテナの基部) (写真13 :送信機パネル) (写真14 :同軸結合器) (写真15 :同軸ケーブル)



Funkamateure aus Japan und Deutschland sind an diesem Wochenende in Goslar zu Gast. Als Erstes begutachten sie die wohlgerundeten Figuren von Fernando Botero. Für die gibt es auch ein Küsschen. Foto: Plock

写真9 :ゴスラーの新聞掲載記事



写真11 :パーチカルアンテナ



写真12 :アンテナの基部



写真10 :市長さんとペーターさん



写真13 :送信機パネル

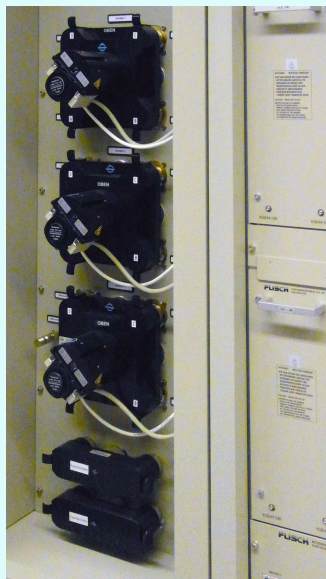


写真14 :同軸結合器

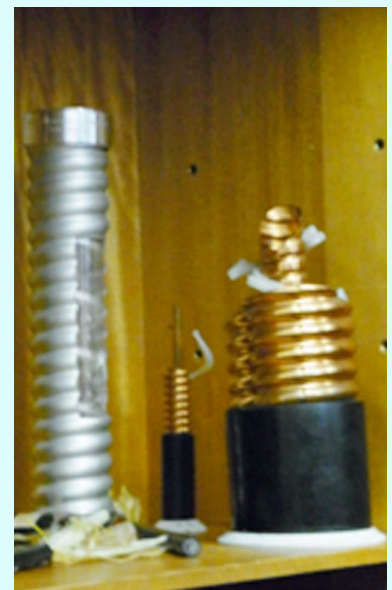


写真15 :同軸ケーブル

7日の圧巻は、Har鉄道のSL体験であった。多分鉄道マニアにとっては垂涎の的であろう。約30分の乗車であったが満席でデッキに居たのが良かった。列車がカーブする毎に左右に見える先頭の機関車を写真にとり、石炭の粉やススが容赦なく降ってくるのも昔を思い出して懐かしかった。狭軌で小さく感じるSLであったが、ハーツ山を駆け廻る登山列車で力もあり快適であった。(写真16:ブロッケンバーン鉄道) (写真17:鶴見さん(D00Q)と)

写真16:ブロッケンバーン鉄道



写真17:鶴見さん(D00Q)と



JAIGミーティングは夕刻の6時半から始まった。今回私は奥まった席に閉じ込められる形になったので、写真撮影はその位置から望遠で撮るだけに決めて専らパーティーを楽しむことにした。先ず冒頭に挨拶に立った壱岐さんは、開会の辞を述べられた後サイレントキーになられた後藤さん(JH3GOH)、ウィルフリートさん(DD6UMW)、ディーター・クレスさん(DD8PW)、エディスさん(DF7WU)、ディーター・ハッセルさん(DL6FCW)、西田さん(JE2AIN)の在りし日を偲び黙祷を捧げた。(写真18:追悼)



写真18:追悼

来賓と歓迎の挨拶は地元の元DARC会長のウォルター・シー・リンクさん (DL3OAP)がされ、この席で# 555のJAIGメンバーになって頂いた。(写真19 来賓の挨拶をされるシー・リンクさん)

今年のJAIG賞は、ゲルダ・チエルプカさん (DJ6DO)、ゴジヤ・チエルプカさん (DE1MCH) 夫妻に贈られることがアナウンスされた。JAIGの発展のため陰に日なたに尽くしてこられた古いメンバーの方で、一際大きな拍手がドイツのメンバーから起こった。今回は出席できないとのことで、6月のフリードリッヒハーフェンのハムフェアー時にお渡しするとのことであった。(注 :お二人は2004年のJAIG大阪に来られている)

そして今回の立役者である、ゲルダ・ヤコブスさん (DL5OBK)とヨアヒム・ヤコブスさん (DA7TAJ) 夫妻が紹介された。(注 :ゲルダさんは、2004と2010年のJAIG大阪に来られている)

来年2012年のJAIGミーティングは、お馴染みのペーター・シッケルさん (DG0JT)とヘイケ・シッケルさん (DE1JTH) 夫妻が担当されて、ザクセン州のケムニッツ市で行われることが発表された。ホテルの予約も既に済んでおり、日本からも多くの参加を望まれている。余興は、一瞬ドイツにいることを勘違いしそうであった。遠くからスコットランドのバグパイプの音が聞こえてきたので他のパーティーの余興かと思っていたところ、音は段々と大きくなってキルト衣装の女性のバグパイプ奏者が登場した。なんでもゲルダさんのお友達だそうで、ドイツでも珍しいので企画されたとお聞きした。ユーモアな話し振りと共に「聞く 毬みの木」等の曲を披露して、最後は堂々とそして音が消えゆくまで行進して退場され大変楽しかった。(写真20 :バグパイプ演奏)

8日翌日皆さんそれぞれにゆっくり今回最後の朝食をとり、来年の再会を約束して別れた。お世話になった全ての方々から感謝しながら。(写真21 集合写真)



写真19 来賓の挨拶をされるシー・リンクさん

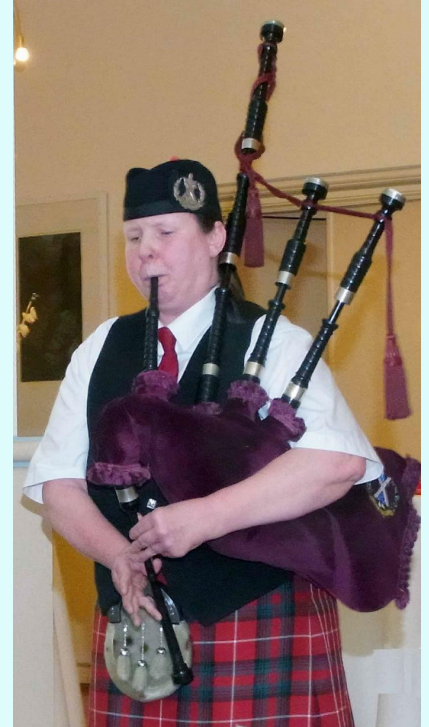


写真20 :バグパイプ演奏

写真21 集合写真

